

# saveMLAK ニュースレター

第 35 号

## 各地資料保全ネットワークからの報告より

立ち上げ間もない団体も 10 年を超える活動歴を持つ団体も、共通した課題としては、いかに基盤を形成するかということになる。これは、我々 saveMLAK も直面している課題であるし、とくにプロボノ登録者の活用もしくは登録更新を考える上で多くの示唆を与えるものであった。特に特定の災害を機に立ち上がった組織は、継続を前提とせずスタートしていることから、初期には多くの協力・支援が寄せられるものの、継続的な活動への移行に難がある。これは、単純にモチベーションの問題だけでなく、各々の所属先における理解の継続性が指摘された。この面では、救済作業の遂行だけでなく活動のアウトプットをいかに行っていくかが重要で、市民に向けた活動報告会等の必要性和効果が複数の団体から報告されるとともに、今回のような横のつながりづくりに繋がる機会の必要が確認された。

全国の活動報告をみても、歴史資料ネットワークという指導・処理に関する技術・知識等ノウハウを持った存在が、一定の組織・資金をもって全国のサポートにも当たっていることが、大きな推進力となっていることは間違いない。しかし、情報共有という点では一部の人的な繋がりに頼っている部分が大きく脆弱性を否定できないのも事実であり、被災情報の収集・公開と活動を繋げる存在として、saveMLAK の連携・協力の可能性を再認識し、今後の在り方についての要検討事項として報告する。

【細川 健裕】

## 歴史資料ネットワーク設立 20 周年記念 「全国史料ネット研究交流集会」 記念講演より

集会の冒頭に 3 つの講演があった。史料ネットの奥村教授(神戸大学)は、史料ネットの 20 年間の振り返りと新たな展望を話された。阪神・淡路大震災の当時は 1 年程度の活動予定だったそうだが、「地域歴史資料の保存」は短期間で終わられる活動ではなく、地震や豪雨災害も各地で発生したために組織の改編・世代交代を行って継続してきたとのことだった。各地からの報告も踏まえて感じたのは、神戸の史料ネットを中心にしつつもそれ単独ではなく、全国に活動の担い手となる資料保全ネットワークが増えたことが、20 年間の継続と発展の要因なのということだった。

今後の発展には、各地の大学と地域住民、M・L・A・K など文化情報拠点の 3 者が中心となり、文科省・文化庁などの支援が加わる必要があるとのことだったが、これは木下教授(熊本大学)の記念講演でも「行政による史料ネットの運営支援」が触れられ、共通する部分であった。またこの考えは、15 日に採択された『『地域歴史遺産』の保全・継承に向けての神戸宣言』にも、専門家・市民・行政および大学の役割として盛り込まれている。

国立文化財機構の栗原氏の講演では、被災文化財救援体制について知ることができた。東日本大震災直後からの「被災文化財等救援委員会」と文化財レスキュー事業を経て、常設の委員会とネットワークを設置、指定・非指定文化財を軸とした全国レベルの MLA 連携が構築されつつあり、今後はブルーシールド等国際連携の体制も検討するとのことだった。

参考 URL [http://siryo-net.jp/event/zenkoku\\_shukai/](http://siryo-net.jp/event/zenkoku_shukai/)

【小村 愛美】



## 震災から4年を迎えて

今月11日で東日本大震災からちょうど4年を迎える。2月の終わりぐらいからマスコミが震災に関する特集を組むと、「もうそんな時期になったのか」と思うようになった。決して風化してはいけないのはわかりつつ、震災地に足を運んでいない自分にとっては復興がどうなっているのか直に感じられないのが悔しいところである。

ところで、最近、saveMLAKの役割についてふと考えるようになった。その主な原因は震災後から一躍有名になったデジタルアーカイブの存在であろう。少しでも当時の状況を残そう、後世に伝えようという取り組みが震災のみならず様々な分野にも広まっている。その点ではsaveMLAKはMuseum, Library, Archive, Kominkanという生涯学習という点では共通点があるものの、相互作用が実際には少ない分野で震災の記録を留めようという取り組みをいち早く行ったと評価できる。それは近年発行されているデジタルアーカイブ関連の書籍でもよく取り上げられていることから伺える。だが、4年を前にしてそれらの情報をどう使えばいいのか、活用すればいいのか個人的に疑問を持つようになってきている。活用例の一つとしてsaveMLAKメソッドという防災訓練プログラムがある。それだけでなく大勢の人が（自分も含め）作り上げた施設のページをうまく有効活用できないのかとふと考えるときがあるのだ。しかしどう活用できるのかアイデアが思いつかないのも現状である。施設名を検索した時にsaveMLAKのページが表示され、その時に改めて東日本大震災で何が起きたのかを再認識してほしい、これはいち作成者として思いを馳せている。

被災された地域は復興に向けて躍進をしているという話をよく聞く。それは喜ばしいことである。それだけでなく、この震災から得たことをあらゆる方法で伝えていくという作業が重要視されるのではないかと思うこの頃である。

【富澤 美典】

## saveMLAK 統計 2015年3月現在

ML アカウント数	281 (-2)
総ユニーク wiki 編集者 アカウント数	532 (±0)
wiki 編集回数の統計	147,006 (+27)
総 wiki ページ数	29,548 (+5)
総 wiki 施設ページ数	25,676 (±0)

## 3月の出来事と今後の予定

2015年 2月17日

第47回 saveMLAK MeetUp 開催

2015年 3月17日

第48回 saveMLAK MeetUp 開催

## saveMLAK 会計 2015年2月期収支

1月末日現在

### <収入>

受取利息	16	みずほ銀行
計	16	

### <支出>

計	0	
---	---	--

### 2月末現在 残高

948,619円 (前月比 +16円)

【ファンド係：赤塚 昌俊】

## 編集後記

花粉が飛び始めているようですが、それより気温の変動で身体がくるいそうです。既に私は今月初めに体調を崩しました。これ以上、被害がないことを祈ります。

【今号編集担当：富澤 美典】

編集発行：saveMLAK プロジェクト  
発行日：2015年3月10日 (第35号)  
発行所：神奈川県横浜市中区相生町3-61 泰生ビル  
さくら Works<関内>408  
アカデミック・リソース・ガイド株式会社内  
saveMLAK プロジェクト  
E-mail：pr@savemlak.jp  
URL：http://saveMLAK.jp/



saveMLAK ニュースレターはクリエイティブ・コモンズライセンスにより提供、配布しています。複製・配布等、自由にしていただいて構いません。